

# 目次

---

1. 展示活動	
企画展 .....	2
特別企画展 .....	6
常設展 .....	10
きせつ展示 .....	12
2. 講座・講演 .....	13
3. 利用状況 .....	14
4. 寄贈資料・図書 .....	16
5. 資料特別利用 .....	16
6. 展示・講座等への協力 .....	17
7. 資料保存・修復 .....	17
8. 博物館実習 .....	18
9. 広報・普及活動 .....	20
10. 東京家政大学博物館友の会(博友会) .....	20
11. 博物館運営委員会 .....	21
12. 博物館職員 .....	21

# 1. 展示活動

## 企画展「包むー風呂敷からドレスまでー」

会 期 令和元年5月16日(木)～6月19日(水)

会 場 百周年記念館5階 第1展示室

入館者数 3,636名(31日間)

広 報 物 ポスター、チラシ

配布資料 展示品目録(全4頁)、関連図書目録(東京家政大学図書館作成:全2頁)

展示趣旨 「包」という漢字は胎の中に子がいる状態を表しているとされ、大切なものを守るという意味がその文字自体に含まれている。物にあふれる現代社会において、身の回りに目を向ければ包装されたものを多々見つけることができる。包むことの目的は様々だが、「包」の意味から伺えるように、中のものを大切にしたい、大切であることを示したいという思いが根底にあるといえる。

そして私たちにとって最も身近な「包む」といえば衣服である。身体保護以外にも嗜好に基づいて装うことや、社会における規範に則した装いや帰属の表現などの目的もあり、衣服に身を包むとき、そこにある機能や目的は様々である。

本展では着物やドレス、外国の民族衣装などの衣服のほか、風呂敷や折形などを用いて「包む」ことの多様性に焦点をあてた。

### 関連事業 ワークショップ「折形を折ってみよう」

日 時：①5月30日(木) ②6月12日(水) 13:00～14:30

会 場：百周年記念館5階 特別展示室

参加人数：①24名 ②16名

内 容：3種類の折形の中から好きな折形の一つを選んで制作

### 着装体験 「カンガを着てみよう」

日 時：企画展開催期間中は常時開催

会 場：百周年記念館5階 特別展示室

参加人数：414名

内 容：タンザニアの民族衣装のカンガを自由に体験

### 着装体験 「クリノリン・スタイルのスカートをはいてみよう」

日 時：6月4日(火) 13:00～14:30

会 場：百周年記念館5階 特別展示室

参加人数：13名

内 容：当館で製作した体験用クリノリン・スタイルのスカートの体験



ポスター



ワークショップ



着装体験 (カンガ)



着装体験 (クリノリン)

ギャラリートーク(当館学芸員による展示室での展示品解説)

日 時：①6月8日(土) ②6月17日(月) 15:00～15:40

参加人数：①13名 ②23名

まとめ 本展では「包む」をキーワードに、様々な時代や国の資料を展示した。言葉だけでは展示の内容を具体的に想像することが難しい広いテーマであったが、そのおかげで時代やジャンルが絞られた展示では同時に並ぶことのない資料の数々を同じ空間で取り上げることができた。また、当館に来館する本学学生の一部は授業の一環として来館しており、こうした学生は、博物館・美術館の展示等への興味や関心が薄い場合も少なくない。本展の展示物の多様さは、そうした本学学生へのアプローチにもなったと思われる。さらに、来館者自身が思い浮かべていた「包む」以外のものを展示の中で発見したことにより、「もっと包むがあるかもしれない。身の回りで探してみようと思う」と、展示室の外へも視点を向ける声が本学学生・一般共に多かった。

以下に来館者アンケートからの抜粋を紹介する。

[一般]

\*“包む”というテーマでどのように展示がされているのか気になっていました。単に“物”を包むという概念ではないことがよくわかる。面白い。興味深く見ることが出来ました。(40代・女性)

\*“包む”という切り口は面白いと思いました。普段と違う見方が出来たと感じました。(50代・男性)

\*ドレスがシンデレラみたいだと思いました。またきたいです。(9歳・女性)

[本学学生・生徒]

\*包むものといえば風呂敷や袋などしか思い浮かばなかったがこの展示を見て、今自分が着ている服も包むものだったと気づかされた。身近なものほど気が付くのが難しいと感じた。身近なものにもっと意識を向けたい。(大学2年)

\*日本と他の国を比較することで、その考えや生活の違いが見えてきて面白かったです。(大学1年)

\*こんなに素晴らしい展示がある大学ってすごいなと改めて思いました。(大学3年)

\*1年に西洋服飾の授業で習ったクリノリンやエンバイやドレスなど「これ習った!」とは分かったが、まだ完全に説明できるわけではなかったので、勉強しなきゃと思いました。(大学2年)



着装展示



本学附属女子中学校・高等学校の制服



インド・アフリカの民族衣装



西洋のドレス



日本の着物(銘仙)

# 1. 展示活動

## 展示品目録

資料名	使用・製作年	備考
*備考欄に所蔵表記のないものは、すべて東京家政大学博物館蔵		
①ケース		
懸紙	昭和14年	
封筒	昭和10年	
國策靴下替底型紙	昭和15～16年	
絵封筒	大正時代末期～昭和時代初期	
ブックカバー		
「千代田之大奥 神のくるひ」	明治29年	楊洲周延画
帙		
函		
『Journal des Demoiselles』	1896年12月1日号	
欧風刺繍 「赤いバラ」	2006年	見藤妙子作
②ケース		
眼鏡・眼鏡ケース		
筭・ケース	明治～大正時代	
根掛・ケース	明治～大正時代	
シガーボックス		
シルクハットケース・シルクハット	20世紀	
③-1 ケース		
風呂敷(平包み)		
迦楼羅裏(複製)	昭和27～30年制作	共立女子大学 被服平面造形研究室蔵
師子幟(複製)	昭和27～30年制作	共立女子大学 被服平面造形研究室蔵
風呂敷	明治時代末期～大正時代	
オリンピック東京大会 記念風呂敷	昭和39年	
黄色の風呂敷		
結納品	昭和11年	
『包結圖説』より再現 弓包、矢包、鞆包、玄猪餅包、板の物包、金襴緞子繻子類巻物包		
③-2 ケース		
志野茶碗	江戸時代	個人蔵
黄瀬戸茶碗	江戸時代	個人蔵
④-1 ケース		
『女子作法書実習之部』	明治40年	
折形		
春の胡麻塩包、秋の胡麻塩包、冬の胡麻塩包、真胡麻塩包、俗胡麻塩包、 山椒粉包、胡椒粉包	明治29～30年	
④-2 ケース		
折形		
箸包、包丁包、団扇包、串梯包、羽子板、匂袋包、琴柱琴糸、金銀包、 黄金包、砂金包、柄鮫包、正月元日の金子包、夫婦の御箸入	明治29～30年	
⑤ケース		
包装紙 三越		三越蔵
紙袋 高島屋		
紙袋 京王百貨店		
⑥-1 ケース		
ネクタイ(フォア・イン・ハンドタイ)	大正11年	
ネクタイ(バックタイ)	明治41年	
ネクタイ(ボータイ)	大正10年	
ネクタイ(蝶ネクタイ)	大正6年	
ネクタイ(蝶ネクタイ)	明治38年	
中折帽		
手袋		
⑥-2 ケース		
ショール		
ショール	明治時代初期	
帽子		
襟巻	昭和時代初期	
帽子		
ショール	昭和時代後期	
ショール		
ベレー帽	昭和時代 ウール	
夏帽子	大正4年 麻	
靴	1938年 ワニ革	
足袋	昭和時代初期 木綿	
雪下駄	昭和時代後期	
ベビーシューズ	ボビンレース	
足袋	ビロード	

## 1. 展示活動

資料名	使用・製作年	備考
手袋	明治時代末期～大正時代初期 木綿レース	
手袋	イタリア 1950年頃 仔山羊革	
手袋	昭和5年 ウール	
靴下	昭和5年 ウール	
靴下	昭和時代前期 ウール	
⑦ ケース		
サリー	絹	
サリー ニヴィスタイル	20世紀後期 絹	
サリー カッチャスタイル	20世紀後期 レーヨン	
ドーティ カッチャスタイル	1870～1880年代 木綿	
アディンクラ(男性用巻き衣)	20世紀中期 木綿	
ケンテ(男性用巻き衣)	20世紀中期 レーヨン	
カンガ	21世紀 木綿	
カンガ	21世紀 木綿	
カンガ	21世紀 木綿	
⑧ ケース		
西馬音内の盆踊り衣装(秋田県)		
野良着		
火消装束		
猫頭巾・羽織	江戸時代	
手甲・股引	明治～大正時代	
⑨ ケース		
薄蒔葱縮緬地菊牡丹器物模様振袖	大正時代	
⑩ ケース		
印半纏	大正11年～昭和5年頃 木綿	
和宮降嫁 役人附・行列附	文久元年	御用御蔵板方 小林佐之進作
『ル・ボン・ジャンル』(1827年版復刻)	フランス 1931年	東京家政大学図書館蔵
タータンを着た人形	スコットランド 20世紀	
⑪ ケース		
東京家政大学附属女子高等学校制服	昭和48～51年着用	
東京家政大学附属女子高等学校制服(盛夏服)	昭和55年頃	
東京家政大学附属女子中学校制服(盛夏服)	昭和55年頃	
⑫ ケース		
法服 裁縫雛形「弁護士礼服・帽子」	明治38年頃	
法服 地方裁判所判事	昭和時代初期	
手術着	平成時代	個人蔵
裁縫雛形「手術着」	大正4～5年	
⑬ ケース		
ローブ・ア・ラ・フランセーズ	フランス 1780年頃 絹	東京家政大学蔵
スペンサー	イギリスまたはフランス 1810年代 絹サテン	
シュミーズ・ドレス	イギリス 1815年頃 綿モスリン	東京家政大学蔵
コルセット	イギリス 1860年代後半 木綿	東京家政大学蔵
クリノリン	イギリス 1860年代後半 木綿 スチール	東京家政大学蔵
イブニング・ドレス	イギリス 1865年頃 絹	東京家政大学蔵
⑭ ケース		
茶練貫地宝尽模様腰巻	江戸時代 18～19世紀	共立女子大学博物館蔵
紫縮緬地御所解模様小袖	江戸時代 18～19世紀	
⑮ ケース		
鼠縮緬地近江八景模様振袖	明治時代	
黒木綿地折鶴模様振袖	明治時代	
⑯ ケース		
銘仙着物	昭和23年頃	
銘仙		
着物・羽織・裂	大正～昭和時代後期	
⑰ -1 ケース		
『ギャラリー・デ・モード』(1778～1787年までの復刻版)	フランス 1912年	東京家政大学図書館蔵
⑰ -2 ケース		
『レ・モード・パリジェンヌ』	フランス 1859年	東京家政大学図書館蔵
『レ・モード・パリジェンヌ』	フランス 1866年	東京家政大学図書館蔵
⑰ -3 ケース		
『ル・ボン・ジャンル』(1827年版復刻)	フランス 1931年	東京家政大学図書館蔵
『女用訓蒙図彙』	明治時代	奥田松柏軒編
『手鑑模様節用』上の巻	江戸時代	梅丸友禅著
『古今模様集』	明治18年	村上正武編
⑱ -1 ケース		
綿布団		
⑱ -2 ケース		
薄葉紙、アーカイバルボード		

## 1. 展示活動

### 特別企画展「絹と木綿」

会 期 令和元年10月17日(木)～11月22日(金)

会 場 百周年記念館5階 第1展示室

入館者数 3,156名(30日間)

出版 物 図録『絹と木綿』(カラー20頁)

広 報 物 ポスター、チラシ

配布資料 展示品目録(全4頁)、関連図書目録(東京家政大学図書館作成:全2頁)

展示趣旨 本展では、衣服の素材として日本人になじみ深い「絹」と「木綿」を取り上げた。着物やドレス、仕事着等を展示するとともに、繭や綿花、糸や布に触れる「ハンズオン」を多く取り入れ、自然由来の素材が衣服になる過程に目を向けた。絹と木綿を対比させることで、それぞれの素材の特性を活かす技術や工夫、用途をより明確にした。また、近代日本の発展を支えた繊維産業に注目し、製品としての絹と木綿の歴史に触れながら、衣服と社会の関係を見つめ直す機会となることを目指した。

関連事業 講演会「絹と木綿—つむぎ出す人と衣服の物語—」

日 時：11月9日(土) 13:30～16:20(開場13:00)

会 場：120周年記念館2階 2C 講義室

講 師：田村均氏(埼玉大学教授)

泉二弘明氏(株式会社銀座もとじ代表取締役社長)

参加人数：171名

内 容：田村氏より「製品としての絹と木綿の歴史」、泉二氏より「素材を知り、産地を想う—今、着物を販売するということ—」という題目でお話しいただき、その後展示担当者を交えて意見交換や質疑応答を行った。

ワークショップ「<sup>さきおり</sup>裂織のコースター作り」

日 時：①10月30日(水) ②11月16日(土)13:00～15:00

会 場：百周年記念館4階 共同グループ実習室A

参加人数：①15名 ②15名

内 容：布をひも状に裂いた「裂糸」を使い、手織りでコースターを作る。

ギャラリートーク(当館学芸員による展示室での展示品解説)

日 時：①10月24日(木) ②11月2日(土) 15:00～15:45

参加人数：①41名 ②21名



ポスター



講演会



ワークショップ



ギャラリートーク

まとめ 展示の導入として、「衣服は布から、布は糸から、糸は繊維から作られる」ことを強調し、素材から繊維を取り、糸、布を作る過程を、ハンズオンを中心とした展示手法で紹介した。特に、「着物一着作るのに必要な繭／綿」の展示は、衣服を作るために多くの生き物の命が必要なことが直感的に分かると好評だった。また、ハンズオンで多種多様な布地の感触を確かめることで、ガラスケース内の着物の手触りや着心地も想像できたという感想があり、一步踏み込んだ鑑賞体験につながったことと思う。

展示の後半では、明治時代以降の繊維産業を中心に、日本における絹と木綿の歴史的な事項を紹介した。普段何気なく着ている衣服の背後に、このような歴史的・地域的な広がりがあることに驚き、興味を持ったという声が多く寄せられた。

講演会は、講師の方々の専門的な解説はもとより、その真摯な取り組みや熱意に触れ感銘を受けたという感想が多く、長丁場ながら興味を持って参加していただけた様子がかうかえた。

以下に来館者アンケートからの抜粋を紹介する。

[一般]

- \*基本的な知識から徐々に歴史の内容に入り、とても分かり易く素材の歴史が理解できました。(20代・女性)
- \*素材に触れることができる展示は、視覚以外の情報を伝えてくれる好い展示でした。(40代・男性)
- \*絹・木綿ともに衣服を通して展示されていることでわかりやすく、親しみが持てた。大学ならではの所蔵品もあり、興味をおぼえた。(50代・女性)
- \*木綿や絹は知っていてもこのように深く掘り下げてみせてくれると内容的にもおもしろい。(70代以上・男性)

[本学学生・生徒]

- \*様々な種類の着物を間近に見ることができて良かった。(大学4年)
- \*木綿や絹について、服の素材として布になったものしか見ていなかったの、生地になる前の繭や絹、糸の状態で見ることが出来てとても勉強になりました。(大学1年)
- \*知識として持っていたら、ふとした時に、将来学校で子どもに話せたら面白そうと思った。(大学3年)
- \*文学作品で多く登場する衣服を目で見ることができて自分の趣味にも役立ちました。(大学2年)
- \*様々な布に触れ、学科の授業では見られないものがたくさんあり、とても面白かったです。(大学3年)
- \*私たちが普通に着ている服があるのは、日本やいろいろな国の知恵や努力があったことを知ることができて嬉しいです。(高校生)



展示室導入と絹の衣服



一反分の繭とワタ



ハンズオン（真綿、練糸、生糸）



木綿の衣服



おすすめアイテム診断チャート

# 1. 展示活動

## 展示品目録

資料名	国名・時代・素材	備考
* 備考欄に所蔵表記のないものは、すべて東京家政大学博物館蔵		
<b>絹の衣服</b>		
② ケース		
名物裂(復元)より8点	大正12(1923)年頃 絹	
③ ケース		
五衣 青松立涌文	大正4(1915)年 絹	
打掛 綸子地立涌菊牡丹模様	江戸時代後期 絹	
④ ケース		
一ツ身 羽二重地桃太郎模様	昭和時代前期 絹	
名古屋帯 塩瀬地扇子模様	昭和時代前期 絹	
着物 変わり織地矢羽根模様	昭和時代初期 絹	
着物 縮緬地菊模様	明治時代中期 絹	
⑤ ケース		
生絹着物「藤波揺影」	平成20(2008)年 絹	土屋順紀
着物 縦縞模様御召	大正時代 絹	
単衣 紹地水玉模様	昭和時代初期 絹	
⑥ ケース		
和装コート	昭和時代初期 絹	
着物 縦縞模様銘仙	大正時代 絹	
着物 麻の葉模様銘仙	大正時代 絹	
紬着物「兎影」	平成6(1994)年 絹	土屋順紀
木版摺更紗着物「山菜英文」	平成15(2003)年 絹	鈴木滋人
<b>様々な植物繊維</b>		
⑦ ケース		
梶の皮〜太布糸		
⑧ ケース		
帷子 紅葉雁模様	江戸時代中期〜後期 麻	
単衣 緋模様	明治時代〜昭和時代初期 麻	
⑨ ケース		
仕事着	明治時代〜昭和時代初期 麻	
アットウシ	昭和時代 オヒョウ、木綿	
半纏	昭和時代初期 藤、木綿	
<b>繊維から布へ</b>		
⑩ ケース		
一反分の繭と木綿		協力：岡谷蚕糸博物館 真岡木綿会館
⑪ ケース		
繭、絹糸、絹織物		協力：岡谷蚕糸博物館
⑫ ケース		
ワタ、木綿糸、綿織物		協力：真岡木綿会館
⑬ ケース		
『時代裂染百種 後』	昭和13(1938)年	島岡周助編 時代裂染百種頒布會発行
『染織標本』	明治43(1910)年〜昭和6(1931)年	瀧浦潭製作 日本服装織物研究社発行
<b>近代日本を支えた繊維産業 絹編</b>		
⑭ ケース		
ストッキング	イギリス 1860年代後半 絹	東京家政大学蔵
ブラウス	イギリス 1900〜1905年頃 絹	東京家政大学蔵
⑮ ケース		
『欧米染織鑑』	明治34(1901)年	山口務、登阪秀興 編 実用社発行、個人蔵



## 1. 展示活動

資料名	国名・時代・素材	備考
<b>木綿の衣服</b>		
⑩ ケース		
半合羽	江戸時代後期 木綿	
道中合羽	江戸時代末期～明治時代 木綿	
袴	江戸時代後期 木綿	
浴衣 千鳥模様	平成20(2008)年(江戸時代後期の複製) 木綿	
浴衣 垣根に菊模様	昭和時代 木綿	清水幸太郎
浴衣 麻の葉模様	昭和時代 木綿	
⑪ ケース		
『時代裂染百種』より4点	昭和13(1938)年	島岡周助編 時代裂染百種頒布會発行
『古代裂縞百種』より6点	昭和7(1932)年	島岡周助編 古代裂縞百種頒布會発行
⑫ ケース		
着物 松竹梅鶴亀模様	明治時代前期～中期 木綿	
⑬ ケース		
カンズーまたはベルリン	イギリス 1830年代 木綿	東京家政大学蔵
女兒用ワンピース・ドレス	1880年頃 木綿	東京家政大学蔵
女兒用サマー・ドレス	1890～1900年頃 木綿	東京家政大学蔵
⑭ ケース		
デイ・ドレス	1900年代 木綿	東京家政大学蔵
<b>近代日本を支えた繊維産業 木綿編</b>		
⑮ ケース		
裁縫雛形「本裁女物単衣本重」	明治34(1901)年 木綿	
裁縫雛形「朝鮮服」	明治35(1902)年 木綿	
『實用織物の研究 第1部 綿織物』	昭和6(1931)年	西村益者著 東京織物研究会発行
⑯ ケース		
『新興織物撰集』	昭和13(1938)年	ライオン株式会社発行
モンペ	昭和16(1941)～20(1945)年頃 絹	
<b>木綿の衣服</b>		
⑰ ケース		
機械紡績以前の綿布		
横手絞		
緋		
刺し子		
こぎん		
⑱ ケース		
ドンザ	明治時代～大正時代 木綿	
半纏	明治時代後期～大正時代 木綿	
ソデナシ	大正時代～昭和時代前期 木綿	
タツケ	昭和時代初期 木綿	
マカナイ	明治時代後期～大正時代 麻、木綿	
カルサン	昭和時代初期 木綿	
刺し子半纏(裏)	明治時代～大正時代 木綿	
猫頭巾		
水指		
万祝	平成7(1995)年 木綿	

## 1. 展示活動

### 常設展① 「学園の歴史と創設者」「渡辺学園裁縫雛形コレクション」「渡辺学園の歩み」

会 期 平成31年3月18日(月)～令和2年2月15日(土)

会 場 百周年記念館4階 第2展示室

広 報 物 ポスター(常設展①・②共通)

配布資料 「校祖渡邊辰五郎の事績」(全1頁)、「重要有形民俗文化財渡辺学園裁縫雛形コレクション」(全2頁)、「青木誠四郎著書目録 [研究書]」(全4頁)、「青木誠四郎著書目録 [教科書]」(全2頁)

展示趣旨 「学園の歴史と創設者」

本学の基礎を築いた校祖渡邊辰五郎と大学開学当初の学長青木誠四郎の業績、また二人が掲げた建学の精神「自主自律」、生活信条「愛情・勤勉・聡明」を併せて紹介。

「渡辺学園裁縫雛形コレクション」

裁縫雛形は、明治から昭和にかけて、本学の教育課程の中で製作された衣服や生活用品等のミニチュアである。渡邊辰五郎が考案した裁縫教授法のひとつで、布地と時間が節約できる画期的な方法として好評を得た。

当館では、現在約5000点の裁縫雛形を所蔵しており、うち2290点が教科書や製作用具61点とともに、平成12年12月27日に国の重要有形民俗文化財に指定された。

当コーナーでは、和装、洋装、有職類、生活用品の裁縫雛形を約80点展示。半年(前期・後期)ごとに展示替えを行っている。

「渡辺学園の歩み」

本学「学校法人渡辺学園」は、明治14年、渡邊辰五郎が本郷区湯島の地に開設した私塾「和洋裁縫伝習所」としてはじまる。当コーナーでは、学園設立時から現在に至るまで、伝統ある本学の歩みを紹介。



学園の歴史と創設者 渡邊辰五郎



学園の歴史と創設者 青木誠四郎



渡辺学園の歩み



渡辺学園裁縫雛形コレクション



渡辺学園裁縫雛形コレクション

## 常設展② コレクション展示 前期「日本の食ー豆ー」／ 後期「台湾先住民族の衣装」

会 期 前期：平成31年3月18日(月)～令和元年7月14日(日)

後期：令和元年9月2日(月)～令和2年2月15日(土)

会 場 百周年記念館4階 第3展示室

広 報 物 ポスター(常設展①・②共通)

展示趣旨 前期「日本の食ー豆ー」

日本では、縄文時代の遺跡から大豆や小豆が出土しており、日本人と豆類の関わりの深さを示している。現在消費されている豆類の多くは、弥生時代に栽培されるようになり、中国などの食文化の影響をうけながら、今日まで積極的に利用されてきた。中でも、大豆を豆腐や、納豆、油揚げなどの様々な加工品にして利用してきたことや、小豆に砂糖を加えて甘く調味して和菓子などに使用してきたことは、日本における豆類の利用の大きな特徴といえる。

本展では食の選択肢が増えた現在の日本において、健康や美容といった観点からも注目されている様々な豆類を紹介した。

後期「台湾先住民族の衣装」

当館の4大コレクションのひとつである「台湾先住民族の衣装」は、住田イサミ氏(当館元館長・本学元助教)が30年近くにわたって収集した、台湾先住民族の衣装や織物を中心としたコレクションである。住田氏は文化や生活様式の保護を目的として立ち入り制限されている地域にも「入山許可」を取得して自ら調査に入り、先住民族の人々との交流の中から、数多くの貴重な衣装や織物の数々を収集している。

本展ではコレクションの中から、従来より広く使われている9族の分類を採用し、そのうちアミ、タイヤル、パイワン、ルカイ、ヤミの5つの族の衣装などを紹介した。



ポスター(前期)



ポスター(後期)



日本の食ー豆ー



台湾先住民族の衣装

# 1. 展示活動

## きせつ展示

展示場所 百周年記念館1階ロビー

展示趣旨 日本の主な年中行事を、各行事にまつわる展示物および解説パネル等で紹介する。

- テーマと期間
- 花見：平成31年3月19日～4月2日
  - 入学祝い：平成31年4月3日～4月10日
  - 改元：平成31年4月19日～令和元年5月7日
  - 七夕：令和元年6月25日～7月7日
  - 土用の丑の日：令和元年7月16日～8月7日
  - 重陽の節句：令和元年8月29日～9月16日
  - 西の市：令和元年11月5日～11月20日
  - 七五三：令和元年11月7日～11月17日
  - 正月事始め
  - 羽子板市 } 令和元年12月9日～12月24日
  - 冬至
  - 正月：令和2年1月8日
  - 小正月：令和2年1月9日～1月15日
  - 節分
  - 初午 } 令和2年1月25日～2月9日
  - 針供養
  - ひな祭り：令和2年2月25日～3月3日
  - 卒業祝い：令和2年3月11日～3月18日
  - 花見：令和2年3月19日～4月2日



花見



正月



改元



七五三

## 2. 講座・講演

### 博物館講座

当館館長による講座「アート・プロジェクトとまちづくり」

日 時 ①11月30日(土) ②12月7日(土) 全2回

会 場 百周年記念館4階 中会議室

講 師 手嶋尚人(本学造形表現学科教授・当館館長)

参加人数 ①32名 ②37名

概 要 2015年より開講している当館館長による講座。手嶋尚人館長の専門は住環境デザイン。東京芸術大学大学院生時代より、台東区谷中界隈のまちづくりに携わり、谷中に暮らしつつ現在もまちづくりの活動を続けている。

今回の講座では、専門分野である建築やまちづくりの視点から、「アート・プロジェクトとまちづくり」と題し、アートを媒介に地域を活性化させようとする取り組み、日本と西欧の事例をもとに語った。

#### 芸工展と谷中のまちづくり

谷中を中心としたエリアで開催される芸工展。まちに暮らす人々のコミュニティ、またそこを訪れる人々にとって魅力的なまちづくりとは何なのか、アートとまちづくりの関係について探って解説した。

#### 日本と西欧のアート・プロジェクト

まちに関わるアートの変遷から地方都市の芸術祭について、アートとは何か、アート・プロジェクトにおけるアートの特性について解説した。また、日本とヨーロッパのさまざまなアート・プロジェクトの事例を紹介した。

まとめ 博物館・美術館・ギャラリーから外へ出て、社会的な文脈でアートを捉え、アートを媒介に衰退する地域を活性化させようとする取り組みに関心は高く、本学の学生を含み幅広い層の参加者があった。アート・プロジェクトという、当館の展示で取り上げる機会の少ないテーマの講座とあって、初めて当館を利用する方が多く見受けられた。

谷中界隈の芸工展をはじめ、そこに暮らす人々のコミュニティ、また、まちづくりと連動したビエンナーレ、トリエンナーレの開催等、日本とヨーロッパについて事例をもとに話題が膨らんだ。

「アートの視点からまちづくりを学べてよかった」、「日本と海外のアート・プロジェクトの考え方の違いがわかった」等、アートと人の関わりや地域のコミュニティ、また、日本とヨーロッパのアート・プロジェクトを考える講座となった。



**参加費 無料** **2019年博物館講座**  
**「アートプロジェクトとまちづくり」**

手嶋尚人館長が専門である建築やまちづくりについて解説する講座です。今年のテーマのアート・プロジェクトとは、美術館やギャラリーから外に出て社会的な文脈でアートを捉えたり、アートを媒介に地域を活性化させようとする取り組みです。

会場 中会議室(百周年記念館4階)  
定員 50名 \*定員に達した時点で受付終了  
申込方法 事前申込制 10/17(木) 9:30~  
当館HPまたは企画展受付にて受付  
\1回のみのご参加も可能です。!

**第1回 11/30(土) 13:00~14:30 (開場12:30)**  
**芸工展と谷中のまちづくり**  
「まちじゅうが展覧会場」をキーワードに、1993(平成5年)に始まった芸工展。毎年10月に谷中を中心としたエリアで開催されています。まちに暮らす人々、またそこを訪れる人々にとって魅力的なまちづくりとは何なのか、アートとまちづくりの関係を探っていきます。

**第2回 12/7(土) 13:00~14:30 (開場12:30)**  
**日本と西欧のアート・プロジェクト**  
日本では1990年前後より、まちづくりと連動したアート・プロジェクトが始まりました。ヨーロッパではヴェネツィアビエンナーレが1895年より開催されています。日本とヨーロッパそれぞれの違いや現在の流れ等について事例をもとに解説します。

ポスター



講座の様子

### 3. 利用状況

#### 各月の開館日数と入館者数

##### 平成30年度 入館者数集計

企画展「こどもの衣・食・遊一日々の楽しみと祝いー」

平成30年 5月17日～ 6月20日

特別企画展「和装モダン」

平成30年10月18日～11月22日

月	企画展						常設展					
	一般	教職員	学生	附属	計	開館日数	一般	教職員	学生	附属	計	開館日数
4	-	-	-	-	-	-	143	12	193	4	352	24
5	389	75	617	85	1,166	13	237	21	597	61	916	24
6	1,007	90	974	314	2,385	18	583	38	781	185	1,587	27
7	-	-	-	-	-	-	109	4	32	6	151	13
8	-	-	-	-	-	-	57	0	0	3	60	4
9	-	-	-	-	-	-	78	4	17	1	100	22
10	1,495	74	452	187	2,208	12	706	17	297	17	1,037	26
11	1,487	87	663	39	2,276	18	546	14	119	13	692	25
12	-	-	-	-	-	-	167	8	7	2	184	18
1	-	-	-	-	-	-	37	1	41	0	79	16
2	-	-	-	-	-	-	11	3	4	0	18	12
3	-	-	-	-	-	-	170	20	3	2	195	11
合計	4,378	326	2,706	625	8,035	61	2,844	142	2,091	294	5,371	222

	一般	教職員	学生	附属	計	開館日数
企画展計	4,378	326	2,706	625	8,035	61
「こどもの衣・食・遊一日々の楽しみと祝いー」	1,396	165	1,591	399	3,551	31
「和装モダン」	2,982	161	1,115	226	4,484	30
常設展計	2,844	142	2,091	294	5,371	222
入館者合計	7,222	468	4,797	919	13,406	-

##### 令和元年度 入館者数集計

企画展「包むー風呂敷からドレスまでー」

令和元年 5月16日～ 6月19日

特別企画展「絹と木綿」

令和元年10月17日～11月22日

令和2年1月末現在

月	企画展						常設展					
	一般	教職員	学生	附属	計	開館日数	一般	教職員	学生	附属	計	開館日数
4	-	-	-	-	-	-	102	6	212	0	320	24
5	554	71	867	10	1,502	14	274	26	733	5	1,038	22
6	1,077	90	736	231	2,134	17	554	28	389	74	1,045	27
7	-	-	-	-	-	-	200	2	24	0	226	14
8	-	-	-	-	-	-	199	0	5	2	206	3
9	-	-	-	-	-	-	40	7	32	0	79	23
10	1,218	49	175	104	1,546	12	573	43	96	17	729	24
11	795	64	722	29	1,610	18	338	12	80	7	437	24
12	-	-	-	-	-	-	104	6	88	5	203	20
1	-	-	-	-	-	-	33	0	48	1	82	16
合計	3,644	274	2,500	374	6,792	61	2,417	130	1,707	111	4,365	197

	一般	教職員	学生	附属	計	開館日数
企画展合計	3,644	274	2,500	374	6,792	61
「包むー風呂敷からドレスまでー」	1,631	161	1,603	241	3,636	31
「絹と木綿」	2,013	113	897	133	3,156	30
常設展合計	2,417	130	1,707	111	4,365	197
入館者合計	6,061	404	4,207	485	11,157	-

## 授業・団体見学対応

### 授業対応：自校史教育

パワーポイントを利用し、校祖渡邊辰五郎の生涯や裁縫雛形の概要を解説。  
その後、常設展・企画展見学。

月日	学科・科(学年)	授業名	人数
5月20日	栄養(1)	基礎ゼミナール	86
5月24日	栄養(1)	基礎ゼミナール	83
5月27日	栄養(1)	基礎ゼミナール	84
5月31日	栄養(1)	基礎ゼミナール	41
6月 5日	保育(短1)	自校教育	96
6月 8日	附属中学(1)		55
6月12日	教福(1)	基礎ゼミナール	40
6月19日	教福(1)	基礎ゼミナール	39

### 授業対応：企画展展示解説

企画展示室、または講義室において、企画展の展示品や展示環境などについて解説。

月日	学科・科(学年)	授業名	人数
5月22日	服美(4)	ゼミナール I	22
5月23日	全学(2~4)	食の文化	99
5月29日	児学(3)	ゼミナール	9
5月29日	児学(1)	基礎ゼミナール	15
5月30日	全学(2~4)	食の文化	51
6月 3日	附属高校(3)	世界史B	9
6月 3日	附属高校(1)	世界史A	29
6月 4日	教福(2・3)	文化人類学	38
6月 6日	附属高校(1)	世界史A	31
6月 6日	附属高校(2)	世界史B	5
6月 6日	附属高校(1)	世界史A	30
6月 7日	服美(2)	服飾造形Ⅱ	29
6月 8日	教福(2)	博物館教育論	16
6月10日	服美(2)	服飾造形Ⅱ	24

月日	学科・科(学年)	授業名	人数
6月12日	表現(2~4)	博物館概論	69
6月19日	服美(2)	服飾造形Ⅱ	10
10月21日	附属高校(3)	世界史B	9
10月21日	附属高校(1)	世界史A	30
10月23日	附属高校(1)	世界史A	30
10月23日	附属高校(1)	世界史A	27
11月 6日	服美(4)	ゼミナールⅡ	28
11月 7日	附属高校(2)	世界史B	5
11月11日	服美(1)	和服論	213
11月18日	服美(3)	博物館実習	37
11月18日	教福(1)	博物館概論	33
11月18日	服美(1)	服飾造形Ⅰ	46
11月20日	服美(3・4)	博物館教育論	43

### 団体対応

本学校祖 渡邊辰五郎の出生地である千葉県長南町の長南町立長南小学校  
6年生の児童41名と教員4名が「郷土の偉人 渡邊辰五郎を知ろう」の学習  
の一環で来館。

パワーポイントを利用し、博物館のお仕事について、校祖渡邊辰五郎の  
生涯や裁縫雛形の概要を解説。その後、常設展と構内を見学。

月日	団体名・来館者	人数
12月11日	長南町立長南小学校 6年児童・教員	45



長南小学校 対応

## 4. 寄贈資料・図書 5. 資料特別利用

### 4. 令和元年度受入資料・図書〈平成31年4月1日～令和2年1月31日〉

#### 資料

寄贈者	品名	数量
稲垣 敦子	着物、軍服 他	87
河野 忠代	着物、半幅帯 他	37
松橋 哲	グアテマラ織紐 他	9
伊倉 雄一	裁縫雛形	75
廣明 明美	下駄 他	2
志田 正枝	裁縫雛形 他	55

(敬称略)

#### 図書

寄贈者	品名	数量
弘田 知子	写真	2
関根 靖光	青木誠四郎関連資料一式	2
関口 紀子	農村実習関連資料一式	1
東京家政大学緑窓会	東京裁縫女学校卒業生名簿	6
河野 忠代	婦人グラフ 他	4

(敬称略)

### 5. 資料等特別利用〈平成31年2月1日～令和2年1月31日〉

	申請者	種別	資料名	展示名・出版物名等	展示期間・発行日
学外	株式会社イデップ (泉屋博古館分館、川越市立美術館)	資料展示 写真使用	浴衣 5点	企画展「ゆかた 浴衣 YUKATA」	5月28日～7月7日 7月20日～9月8日
	神戸ファッション美術館	資料展示 写真使用	着物 10点	企画展「Flowers モードに咲く花」	7月13日～9月1日
	株式会社世界文化社	写真使用	打掛 1点	『家庭画報特選きものサロン』 2019-20秋冬号	8月20日
	朝日新聞社	写真使用	紋紗着物「赤烏」 1点	特別展「きもの KIMONO」広報物	11月1日～
	竹久夢二美術館	写真使用	改良服女物・改良袴他 2点	企画展「はいからモダン袴スタイル」	1月7日～3月29日
学内	人文学部英語コミュニケーション学科 並木 有希	熟覧 写真撮影	アルバム他 7点	調査研究	2月5日
	家政学部栄養学科 関口 紀子	熟覧 写真使用	写真 3点	調査研究	2月19日
	アドミッションセンター	写真使用	写真 6点	2020年度東京家政大学大学案内	3月11日
	家政学部服飾美術学科 杉野 公子	熟覧 写真撮影 写真使用	裁縫雛形 11点	調査研究	6月12日、7月18日 7月24日、8月2日

そのほか個人による調査研究を目的とする閲覧・撮影等の利用が1件あった。



## 6. 展示・講座等への協力 7. 資料保存・修復

### 6. 展示・講座等への協力

	日程	機関	内容	派遣者
学外	6月8日	神奈川県立博物館	連続講座「横浜浮世絵とはなにか」講師	三友 晶子
	6月27日 10月9日	三菱一号館美術館	企画展「マリアノ・フォルチュニ 織りなすデザイン」 作品展示・撤収、図録エッセイ執筆	三友 晶子
	7月4日	千代田区地域振興部文化振興課	当館収蔵資料状況の視察対応	高橋 佐貴子
	10月31日～1月30日	共立女子大学博物館	収蔵品（洋装資料）調査	三友 晶子
学内	10月26日	人文学部教育福祉学科	教育福祉学科シンポジウム「ユニバーサル社会を創る」 巡回指導	三友 晶子
	11月26日	家政学部服飾美術学科	「民族服飾論」ゲストスピーカー	高橋 佐貴子 三友 晶子

### 7. 資料保存・修復

資料保存のための環境整備(温湿度管理、虫菌害対策等)として、収蔵庫の清掃、燻蒸、昆虫調査等に取り組んでいる。  
また、損傷や劣化の激しい資料については、必要に応じて安定化处理や修復を行う。

#### 資料保存

日程	内容
毎月1日	収蔵庫清掃
5月10日～24日	昆虫調査・同定分析
7月23日	収蔵庫大掃除
10月10日～24日	昆虫調査・同定分析
12月16日	収蔵庫大掃除
2月10日	収蔵庫防虫剤入替

#### 資料修復

今年度は実施なし

## 8. 博物館実習

### 令和元年度 博物館実習生の受入

学科別の受入人数

服美	表現	教福	合計
25	51	6	82名

以下の3つ実習・課題を履修・提出し、実習が終了する。

1. 実務実習① 平成31年4月22日(月)～令和元年6月26日(水)のうちの連続3日間(月～水)  
実務実習② 令和元年9月10日(火)～13日(金)
2. 見学実習  
令和元年6月30日(日) 国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市)
3. 課題提出(全6課題)  
課題レポート① 春の企画展「包むー風呂敷からドレスまでー」  
課題レポート② 秋の特別企画展「絹と木綿」  
課題レポート③ 常設展 (※前期・後期とも見学し提出)  
課題レポート④ 博物館開催イベント  
課題レポート⑤ 見学実習  
実習ノート

実習内容

実務実習①

[1日目：当館の活動]

- ①当館の概要
- ②博物館の使命について(グループワーク)
- ③資料の知識と取扱い(服飾品)

和装資料の取り扱い方：取扱いの説明、注意、実践(本だたみ、夜着だたみ、長襦袢等、展示方法)  
外国の民族衣装の取り扱い方：取扱いの説明、注意、実践(たたみ方、展示方法)

[2日目：当館の活動]

- ①資料の収集と管理：資料整理、収蔵庫見学、裁縫雛形について
- ②資料の活用方法：展示、研究支援、広報、グッズ
- ③ワークショップについて：「和紙で着物の雛形を作ろう」

[3日目：資料の知識と取扱い(美術工芸品)]

- ①美術工芸品の取り扱い方：  
取扱いの説明、注意、  
取り扱い方の実践(掛軸、卷子、屏風、仏像)

②美術工芸品の調査法：

作品・資料調査に関する説明

調査の実践(主に掛け軸、仏像を対象)

③作品、資料の保存、修復：

保存・修復に関する説明

修復の実践(和綴じ)

実務実習②

[梱包実習]

- ①保存と活用の観点からみる美術作品の基本的な取扱い方法
- ②陶器入り桐箱の梱包説明・紐の結び方
- ③大型陶器の取扱いと梱包作業
- ④仏像の梱包
- ⑤平面作品の取扱い

[展示実習]

- ①作品、資料の展示方法
- ②絵画、彫刻、工芸品等を用いた展示作業
- ③キャプション、解説文作り
- ④自己担当部分に関する簡単な説明
- ⑤自己評価

[写実習]

- ①デジタルカメラの操作と写真の基礎
- ②博物館資料を撮影する際の注意点
- ③平面資料・立体資料の撮影



梱包実習



展示実習



写実習

## 9. 広報・普及活動

### 書籍の出版

『東京家政大学博物館所蔵 裁縫雛形 渡辺学園裁縫雛形コレクション』

8月8日に光村推古書院より出版



裁縫雛形本

### テレビ放送

復元された海水浴着裁縫雛形紹介	NHK BSプレミアム	美の壺スペシャル 「日本の避暑地」
春の企画展紹介	ジェイコム東京(J:COM)	デイリーニュース
秋の特別企画展紹介	ジェイコム東京(J:COM)	デイリーニュース

### スタンプラリーの実施

企画展・常設展の入館者にスタンプカードを配付

スタンプを4つ集めた方にミュージアムグッズをプレゼント。

有効期限なし

ミュージアムグッズ：ステーションナリーセット

(手ぬぐい、ブックカバー、一筆箋) 3種

トートバック 6種



ミュージアムグッズの一例

## 10. 東京家政大学博物館友の会(博友会)

会員数 64名

会報 年1回発行 6月

見学会 春の見学会・総会

5月25日(土)

博友会総会(中会議室)

東京家政大学博物館 企画展「包むー風呂敷からドレスまでー」

を学芸員の解説つきで見学後、学内食堂で懇親会

秋の見学研修会

11月2日(土)

「大川美術館」「織物参考館・紫」「桐生市散策」

## 11. 博物館運営委員会 12. 博物館職員

### 11. 博物館運営委員

任期 平成30年4月1日～令和2年3月31日

手嶋 尚人	博物館館長、委員長
戸田 雅美	図書館館長
保坂 克二	法人
高野 貴子	児童学科
鈴木 彬子	保育科
田村 恵美	児童教育学科
古茂田 恵美子	栄養学科
尾形 真規子	栄養科
杉野 公子	服飾美術学科
藤森 文啓	環境教育学科
曾根 博美	造形表現学科
トム・エドワーズ	英語コミュニケーション学科
井上 俊哉	心理カウンセリング学科
井森 澄江	教育福祉学科
伊藤 仁	附属中学校・高等学校
石川 由美	博物館
高橋 佐貴子	博物館

### 12. 博物館職員

博物館館長	手嶋 尚人
主 査	石川 由美
主任・学芸員	高橋 佐貴子
学芸員	三友 晶子
学芸員(嘱託)	関 智子
学芸員(嘱託)	鈴木 理子
学芸員(嘱託)	高橋 真生
学芸員(嘱託)	松本 由佳
短期間等嘱託	太田 八重美

東京家政大学博物館年報  
令和元年度

---

2020年3月1日 発行

発 行 東京家政大学博物館  
東京都板橋区加賀1-18-1  
Tel 03-3961-2918  
Fax 03-3961-5246

印 刷 株式会社 白峰社  
東京都豊島区東池袋5-49-6  
Tel 03-3983-2312